

広報・PIチーム 会議録

会議の名称	川口市自治基本条例策定委員会 第7回広報・PIチーム
開催日時	平成20年6月25(水)18時30分から21時10分
開催場所	川口市職員会館 2階 教養室 AB
出席者	(リーダー)伊田(昭)委員 伊田(清)委員、塀和委員、林委員
会議内容	市民フォーラムについて
会議資料	・広報・PIチームからの提案 ・市民シンポジウム 事務局提案 ・広報・PIチームからの宿題 各部会まとめ
発言内容	<p>市民フォーラムについて 市民フォーラムの概要について チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民フォーラムについて検討したい。 (広報・PIチームからの提案に関する説明) <p>事務局 (市民シンポジウム 事務局提案に関する説明)</p> <p>チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの案が提示された。事務局案は、情報発信に主眼が置かれている。 広報・PIチームの案は意見収集・対話に主眼が置かれている。 <ul style="list-style-type: none"> ・3月に行われた協働フォーラムの経験を踏まえると、パネルディスカッションは主催者側の意図が見えてしまい、参加者との温度差が大きい。これではPIにならないと考えている。 ・関心が深い人が200名集まり、素々案に対する意見を聞くタイミングだと思っている。パネルディスカッション形式でやるのであれば、素案が出来た段階が適切ではないか。そのタイミングでは、出来上がったものの情報発信が主眼になるためである。 ・パネルディスカッションは、3月18日に実施された協働フォーラムのことを思い起こすと、対話できたタイミングは、展示物を展示していたスペースにおいてだけであった。フォーラムの中では対話ができなかったように思う。 ・フォーラムでは、意見を交換しあうことが重要だと思う。ただ、方法は、ワークショップだけでなく様々あると思う。市民が自分の意見を言える

場が必要と思う。

- ・自治基本条例は、時代を超えて受け継がれるものであるから、市民の意見を言える場が必要だと思う。
- ・PR と意見交換の 2 つの目的がある。いきなり 2 つの目的を追っていいのだろうか。まずは広報をして、11 月辺りで意見交換の場を設けてはどうか。
- ・確かに、パネルディスカッションは参加者が限られるが、後半に意見を聞く場を設けることもできるのではないか。
- ・対話集会で意見は聞けるはず。

事務局

- ・3 月の協働フォーラムは、パネルディスカッションではなく、事例報告である。
- ・結局舞台の上で 5 人程度の人が話すだけで意味はあるのだろうか。後ろの方に座っている市民はほとんど前の方は見えない。

チームリーダー

- ・ワークショップ型のフォーラムは、過去に市としてもやったことがない形式だと思う。その点では懸念する点は出てくる。
- ・素々案が出来た後の PI のキックオフという位置づけで考えている。
- ・先につながるフォーラムにしたい。素々案に対する市民の素朴な反応が聞きたい。

事務局

- ・90 分間ワークショップを実施して、果たしてどれだけの意見が出るのか。

チームリーダー

- ・意見が出ないかもしれないのでやめるのではなく、意見が活発になるようなやり方で実施したいと考えている。

事務局

- ・200 名がこの会場に入って議論するには会場が狭いのではないか。大声で話さなくてはならなくなる。
- ・その問題は検討しなければならない。

事務局

- ・まずは情報発信をし、意見交換はまちかど懇談会という方法はどうか。
- ・まちかど懇談会は、出席者が地域の呼びかけで仕方なく出てくるような人が多いと思う。あまり活発な意見は出ないと思う。

チームリーダー

- ・初めて参加した人でも、30分の説明を聞けば条例の概要はつかんでもらえるのではないかと思う。

事務局

- ・フォーラムではどこまでのゴールを想定しているのか。
- ・知ることなのか、理解を深めることなのか、フィードバックを受けることなのか。
- ・ゴールが明確にならないと適切な手法が選択できないと思われる。
- ・3つのレベルを同時に達成したいと考えている。
- ・知ってもらおうということだけを目的にするのであればシンポジウムでパネルディスカッションをすればよいと思う。
- ・公聴までを想定するのであれば、パネルディスカッションではそこまではいかないと思う。

チームリーダー

- ・市民にとっても、自ら意見を発するという参加経験は重要である。
- ・パネルディスカッションは、コーディネーターが意見をまとめるだけでなく、会場からの意見も聞いて質疑応答することも可能である。ただ、時間が足りないであろう。

事務局

- ・パネルディスカッションは、理解を深めるための手法なので、公聴を狙いとするとすれば不十分な手法である。
- ・今回のフォーラムは、一回限りのイベントではなく、これから始まるPIの流れのキックオフという位置づけではないか。

チームリーダー

- ・まさにキックオフという位置づけである。

- ・総合計画のまちかど懇談会があるということであるが、10年前に同じような集まりに参加した経験があるが、ポストイットなどを使っているような意見交換をした記憶がある。3回くらいは場所を変えて実施していた。その時の経験からすると、お決まりの内容ではなく、真剣な意見交換がなされていた。地区ごとに開催することで、地区ごとのいろんな思いが出された。

チームリーダー

- ・対話集会については、各部会からもフォーラムだけでなく実施すべきという声がある。
- ・フォーラムをやって対話集会につなげるというのは正しい手法ではないかと思う。
- ・事務局が懸念しているのは、フォーラムで意見が出るかどうかである。
- ・意見交換する内容は、全グループが同じ3つのテーマについて話をするのか。
- ・論点別にグループを編成してはどうか。場合によってはグループの移動もありではないか。
- ・そうすると、途中から参加した人は聞くだけになってしまう。

チームリーダー

- ・なぜPIをやるのかという原点に立ち返って考えたい。情報発信だけでなく意見交換が必要。
- ・編集委員もここで意見を聞いておかないと市民の意見を聞く場がない。
- ・人間の集中力は、1時間が限度ではないかと思う。45分程度が限界ではないか。

チームリーダー

- ・今の案では、作業・交流タイムが20分とられているが、そこを縮めてもいい。
- ・1時間は集中力がもたないと思う。
- ・論点別にやってみても無理ではないか。

- ・なぜ自治基本条例が必要なのか、という議題だけでも 30 分は経ってしまうと思う。
- ・休憩をとったり議題をうまく変えていけば十分もつと思う。

事務局

- ・PI には 3 時間必要であるのは確かであるが、3 時間は参加市民にとって長すぎるのではないかと、参加意欲を削ぐ可能性がある。
- ・3 時間は長すぎると思う。積極的に参加してもらう時間にしては長い。手法はワークショップもありかと思うが、時間を短縮すべきと思う。
- ・前半の挨拶や説明が長いので、素々案の説明を含めて前半 30 分でできないか。

チームリーダー

- ・結論を出したい。フォーラム形式か、事務局案のどちらがよいか。
- ・フォーラム形式でやりたい。
- ・フォーラム形式で 2 時間半くらいの時間でやりたい。
- ・2 時間半で収まるのであればフォーラム形式でもよいと思う。ただ、その場合は意見が出るような運営にしなければならない。

チームリーダー

- ・広報・PI チームとしては、フォーラムでいきたいと考えている。

事務局

- ・フォーラムで提案していただきたいと思う。ただ、途中退席などではなく、参加してよかったと思ってもらえるフォーラムになるような運営をしていただきたい。
- ・20 人のテーブルで意見を言うとなると、一人 3 分でも時間オーバーする。議論できる相場の人数は、せいぜい 10 人が最大ではないか。

チームリーダー

- ・意見が十分に言えない参加者のための工夫は今後詰める必要がある。
- ・コーディネータの数にグループ数は拘束される。コーディネータの確保も課題である。
- ・椅子だけにする、コーディネータの数を増やすことも検討する必要がある。

る。

事務局

- ・ワークショップでは3つのテーマに分けているが、参加者は3つの区分を意識しないかもしれない。
- ・アンケートと意見カードが別々になっているが、一緒にしたほうが良いと思う。

チームリーダー

- ・一緒にする方向で検討する。
- ・編集委員長の説明30分は長いのではないかと。

チームリーダー

- ・説明時間はこのままで、説明内容を事務局案にあるような内容とするのがよい。

フォーラムのキャッチフレーズについて

- ・「咲かせよう まちづくりの花」でよいのではないかと。

集客・広報・準備・受付等について

- ・広報は、素々案が出来た時点で市民にどう情報発信するのか。フォーラムで初めて公表するのか。

チームリーダー

- ・素々案がどのタイミングでできるかによる。
- ・作成・配布するとしたら1枚もののチラシをイメージしている。

対話集会について

事務局

- ・対話集会は1地区何人を想定しているのか。

チームリーダー

- ・地区によると考えている。
- ・対話集会の目的は、素々案に対する意見交換ということでよいのか。そうだとすると、素案ができた段階でもまたやらないといけない。
- ・パブコメはどのタイミングになるのか。

- ・素案ができたタイミングになるだろう。

チームリーダー

- ・素々案の段階で対話集会は実施すべきではないか。

事務局

- ・素案を作成するスケジュールを踏まえると、フォーラムで意見を収集し、対話集会は情報発信や理解を深めてもらうという位置づけにならざるを得ない。

- ・総合計画のまちかど懇談会はどのタイミングでの実施を考えているか。

チームリーダー

- ・総合計画と一緒にやるのは難しいと考えている。

- ・地区別対話集会を素々案で実施するのは難しいのではないか。

- ・素々案の段階でのPIを多くの地区で実施するのが難しいからフォーラム開催という流れになったのであるから、素々案をまた対話集会でPIするというのは流れがおかしい。

チームリーダー

- ・素案の段階で対話集会を実施すべきということか。

- ・PIは素々案の段階でやるべき。対話集会をするとすれば、行政主体の説明会という位置づけで、素案の情報発信機会とするしかない。

- ・対話集会で素々案のPIをするとすれば、10月末辺りまでかかってその後また素々案を修正するという時間はない。

- ・9月14日のフォーラムから10月一杯まで対話集会をやっていたら、素案をまとめる時間がない。

- ・フォーラム後は素案をまとめ、総合計画のまちかど懇談会と一緒に素案の情報発信をするのが現実的ではないか。

チームリーダー

- ・各委員から、9月14日のフォーラム以降にPIをどうすべきか、11月の総合計画との相乗りをどうするかについて意見を共有したい。

	<p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営調整部会では、ワークショップのやり方など、意見をどのように受け取るのかなど具体化しなければ説明できないと思われる。説得力がある内容にブラッシュアップが求められる。 ・開始を 13 時にしてほしい。市長の出席可能時間の関係である。 <p>チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上で終了する。 <p style="text-align: right;">以 上</p>
<p>次回以降日程</p>	<p>平成 20 年 7 月 3 日（木）18 時 30 分から。</p>